

おんがちょう
遠賀町
ONGA TOWN
町勢要覧

みんな
で育む
絆の
まち

2018

町章



昭和47年に公募によって選ばれたものです。遠賀町の頭文字でもある「オ」をデザイン化したもので、町民の団結と融和を表現し限りない町勢の躍進を象徴しています。

シンボルマーク



平成26年に町制施行50周年を記念して作成されたものです。遠賀川の流れはハート型をアレンジし、太陽とスイセンは明るく親しみやすい笑顔のデザインになりました。

町の木 モクセイ



昭和59年に町制施行20周年を記念して公募によって選ばれたものです。当時は、町内のいたるところで目にすることができ、初秋にさわやかに香るモクセイこそ遠賀町にふさわしいということで選ばれました。

町の花 スイセン



町の木と同じく町制施行20周年を記念して選ばれたものです。清らかで生命力があり、暮れから年の初めにかけ一輪二輪と、つぼみから継続的に開花を始めるため、遠賀町の末永い将来を思わせるということで選ばれました。

遠賀町 町勢要覧 2018

発行 遠賀町

〒811-4392

福岡県遠賀郡遠賀町大字今古賀513番地

Tel. 093-293-1234 Fax. 093-293-0806

<http://www.town.onga.lg.jp>

コミュニティを通して

世代を超えたつながりを持つ町

私たちが目指しているのは、

世代を超えた絆を持つ人々が暮らす町です。

そのために、コミュニティ全体で

子育てをするための地域活動やボランティア、

高齢者の生きがいにつながる生涯学習環境の充実などを

積極的に推進しています。

子どもがいきいきと育つことで、

町全体が活気に満ちあふれ

共に成長できることを目標としています。

目次

3	……	子育て・教育
5	……	福祉
7	……	地域・コミュニティ
9	……	健康・スポーツ
11	……	産業
13	……	伝統・文化・歴史
15	……	自然・環境
17	……	防災・防犯
19	……	遠賀町の歴史
23	……	まちづくりの構想と戦略
24	……	遠賀町の行政と議会
25	……	数字で見る遠賀町
26	……	交通アクセス

町長からのメッセージ

私たちのふるさと遠賀町は、豊かな自然とあたたかい心を持った人でいっぱい
の町です。自然とその恵み、穏やかな地域
性は、今を生きる私たちへの先人からの
贈り物であり、未来へと引き継いでいく
べき大切な財産です。

都会と田舎の文化が融合した遠賀町。
めまぐるしく変わる時代の中、今をしつ
かりと受け止めながら、「笑顔と自然あふ
れる いきいき」おんが「くみんなで育む
絆のまち」の実現に向け、今後も遠賀町
らしさを大いに生かしたまちづくりを皆
さまと共に進めてまいります。



遠賀町長 原田 正武

一人一人の子育てと
子どもの成長を
この町全体で応援します

「子育て応援タウン」として、
さまざまな制度や取り組みで
長期にわたって一人一人の子育てを
しっかりとサポート。
地域の人たちも積極的に子育てに
関わりながら、のびのびと成長する
子どもたちを見守っています。



- 1 22年続く6泊7日の通学合宿は一大イベント。
- 2 助産師から子育ての基本や沐浴の仕方を学べる「プレバママ教室」。
- 3 子どもはまちの大切な宝物です。
- 4 子どもとふれあいながら、子育ての情報交換もできる「ぐっぴい」。
- 5 町内にある3つの小学校区全てに学童保育があります。

町ぐるみでサポート
子どもパパ・ママも
のびのび暮らせるまち

全国的に深刻な保育園不足が生じる中、「子育て応援タウン」として町ぐるみで子育て応援を行う遠賀町では、待機児童ゼロを目指すとして町内3つの保育園の増築・改築を行い、受け皿の確保に努めています。また、中学生までの医療費無料の実施や、全ての小学校区への学童保育設置などで子どもたちの健やかな成長をサポートしており、子育て世代の方も安心して、仕事と育児を両立しながらのびのびと暮らせる町です。

親子で自由に遊べる「ぐっぴい」、育児相談もできる「すくすくひろば」など、子育て中の交流の場も多く設けられています。

独自の体験を通して
自主性と協調性を育て
考える力を持った人に

子どもたちの心と体の健やかな成長を願い、遠賀町では独自の学習プログラムを取り入れています。中でも、約1週間、小学校4〜6年生の子どもたちが集団生活を行いながらそれぞれの学校に通う「通学合宿」は、自立性を身につける貴重な機会です。そのほか、田植えや稲刈り、自分でお弁当を作る「子ども弁当作りの日」など、地元の方とのふれあいや「食」の大切さを学ぶ体験学習も実施しています。

また、学力向上のために小中連携教育を推進し、中学校の先生による小学校への出前授業などを行っています。



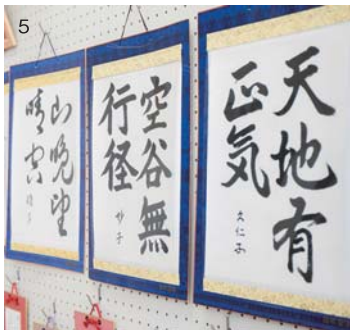
自然いっぱいの環境の中で、子どもたちは毎日お友達と楽しく過ごしています。



田植えや稲刈りを通して、地元農産物や食への理解を深めます。

生涯現役を目指し、 心も体も若々しく 過ごせる環境づくりを

人生100年時代と言われる今日、
遠賀町には「学び、楽しむ」姿勢を持ち続け、
生涯現役を宣言する人がたくさんいます。
心も体も健やかにはつらつとした
生活を送るためのさまざまな取り組みを
町全体で応援し続けます。



- 1 デイサービスセンターでの食事や語らいが元気の源に。
- 2 移動販売は、家の近くまで来てくれるので便利で安心です。
- 3 介護施設でのケアだけでなく、自宅で過ごすためのアドバイスも。
- 4 保健師や管理栄養士による個別相談会を行い、健康づくりをサポート。
- 5 寿大学で学んだ成果を、町の文化祭でお披露目します。

充実の福祉ネットワークで 見守りが必要な人の 生活をサポート

今後ますます進む高齢化に備え、福祉サービスの充実を図り、健康維持のための体操やレクリエーションを行う「いきいきデイサービス」、食事の支援などのさまざまなサービスを提供しています。23自治区全てに福祉ネットワークの組織があり、一人暮らしの高齢者や障がい者などを訪問する見守り活動、公民館での体操・栄養教室や口腔教室などを行っています。

また、近年の課題である買い物困難者対策として、商店の少ない地域への移動販売などを実施し、日常生活の利便性向上を図っています。

学びを楽しみ 活動の成果を 地域の笑顔に変える

高齢者がいきいきとした生活を送るためには、介護サービスなどの提供だけでなく、楽しみや生きがいを持つことが大切です。町民は、中央公民館を会場としてパソコン操作や音楽、体操まで学べる「寿大学」などの教養・健康講座や、役場職員による「出前講座」の受講を通じ、新しい刺激を受けています。

そのほか、子どもたちに遊びを教える「遠賀レクリエーションの会」、劇団や紙芝居などのサークル活動、シルバー人材センターでの業務など、経験と能力を生かした活動に生きがいを感じ、意欲的に取り組んでいます。



リズム体操やレクリエーションで、楽しみながら健康維持を。



施設利用者と地域住民がふれあう機会となる「健康・福祉まつり」。

見守り、支え合いながら
誰もが安心して
住み続けられる町に

核家族化が全国で広がる中、昔ながらの頼れる「近所のおじちゃん・おばちゃん」が、地域のみんなをまるで家族のように温かく見守っています。困ったときには手を差し伸べてくれる、そんな存在が身近にある町です。



- 1 白バイなど憧れの乗り物を体験できる「こどもまつり」。
- 2 町並みクリーン作戦など幅広い活動を行う地域ボランティアの皆さん。
- 3 子どもからお年寄りまで楽しめる図書館は町の人気スポット。
- 4 地区公民館は世代を越えたふれあいの場にも。
- 5 広報おんがで地域の情報やまちの話題をお届けします。

地域コミュニティの核となる自治会活動で協働のまちづくり

少子高齢化、核家族化が進む中、遠賀町では「自助・共助・公助」の精神のもと、住民・地域・行政が一体となった協働のまちづくりを進めています。

自治会では、さまざまな活動を行っており、地域の祭りや敬老会、餅つきなどのイベントを通じて、地域コミュニティづくりを行っています。複雑化する地域の問題を解決していくためには、自治会が重要な役割を果たすことが期待されています。

地域の皆さんが、いつも温かく見守り、子どもから高齢者まで、誰もが安心して暮らせる地域づくりを支えています。



地域の人たちは、いつも温かく見守り、寄り添ってくれる存在。

コミュニティ活動の活性化・充実を図り地域共生力の向上を

地域での人間関係を築くためには、青少年の時期から地域との関わりを持ち、世代を超えた交流を促進する必要があります。そのため、遠賀町では地域や学校などの関係機関が主体となり、「青年の主張大会」「大人としやべり場」などの催しを行っています。

施設を活用した地域づくりも推進しており、公民館や武道場では、ダンスやスポーツ、読み聞かせのボランティア、俳句など幅広いジャンルのサークル活動が盛んです。さらに、清掃ボランティア活動、地区公民館対抗のスポーツ大会などもあり、地域住民の融和と親睦を図っています。



学びを楽しむチャンスがいっぱい。サークル活動も盛んです。

つながりを持つ町
健康・スポーツ

豊かな自然の中で
ふれあいながら
健やかな心と体を育む



自然がたっぷりの遠賀町では、環境を生かした個性的なスポーツイベントや健康をテーマにしたお祭りを開催しています。また、命を育む「食」について学ぶことができる食育講座など、ふれあいを楽しみながら健やかな心と体を育む機会を多く設けています。

独自のスポーツイベントや子どもの頃からの食育で心身の健康を目指す

健やかな心と体を育むため、毎年体育の日に開催される「スポレクおんが」をはじめ、「ふれあいウォーキング」、「スポーツ交流会」などのイベントを多数開催しています。中でも、遠賀川漕艇場で行われる「おんがレガッタ」や、三輪車で走行距離を競う「三輪車4時間耐久レース」などは、参加者も応援する側も楽しめるスポーツ・レクリエーションイベントとして県外からの参加者も多いほど人気を博しています。

また、遠賀町食生活改善推進会などによる食育講座もあり、体をつくる「食」について学ぶ良い機会となっています。

気軽に参加できる場所や機会を設けて健康づくりを促進

遠賀町では、誰もが気軽に健康・福祉について相談や健診を受けられるよう、さまざまな機会づくりに取り組んでいます。公民館での集団健診や各種がん検診の同時実施のほか、「健康・福祉まつり」では健康相談や体脂肪測定などのコーナーを設け、町民の健康増進に努めています。

また、遠賀総合運動公園や遠賀町民体育館などの体育施設に加え、学校施設の開放や、「リフレッシュ教室」、「悠遊ひろば」といった、生活習慣病予防や体力向上などを図る運動教室の開催など、スポーツやレクリエーションに触れる機会を多く設けています。



- 1 世代を問わず楽しめる人気イベント「スポレクおんが」。
- 2 雨の日も運動できる屋内施設も充実しています。
- 3 遠賀総合運動公園ではスポーツはもちろんキャンプもできます。
- 4 「三輪車4時間耐久レース」では大人と子どもが真剣勝負。
- 5 食生活改善推進会の皆さんは、食を通じた健康づくりを行います。



スポレクおんがでは、300名以上の町民の方々が一緒に気持ちのよい汗を流します。



「悠遊ひろば」でいくつになっても元気に過ごせる体づくりを。

つながりを持つ町
産業

受け継いできた農業と
世界に通じる技術で
遠賀の未来をつくる



株式会社釣研

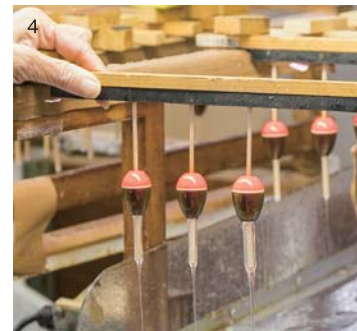
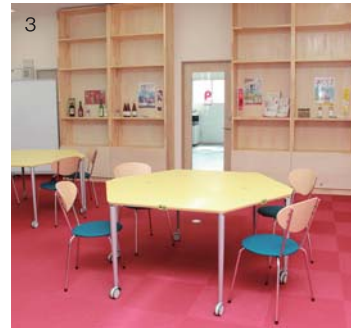


和田商事株式会社



遠賀平野の中心に位置する遠賀町は古くから農耕文化が栄え、稲作を中心に、農業を基幹産業とする町です。さらに「日本一」に選ばれた企業が3社もあり、確かな技術で遠賀町の産業を支えています。

株式会社ナッツ



- 1 「夢れんげ」や菜種油、赤しそドリンクなど、特産品も豊富。
- 2 遠賀町の自然が生んだおいしいお酒や焼酎もあります。
- 3 起業したい方の交流や情報発信をサポートするピット。
- 4 釣研はウキの製造では国内外でトップシェア企業。
- 5 人工大理石メーカーとして約20年間国内トップクラスの和田商事。

命を支える「食」を
育て守りながら
未来へつないでいく

のどかな田園風景が広がる遠賀町では、さまざまな農作物が栽培されています。中でも、れんげを田んぼにすき込んで作った遠賀町産米「夢れんげ」や遠賀町産菜種の一番搾り菜種油、赤しそ「芳香」のドリンクは、特産品として町内外で評判です。また、遠賀町らしさを生かした焼酎や酒、米麺などの加工品、いちじく、ふきなどの農作物も多くあります。

これらの農産物を通して遠賀の食と農について考える地産地消プロジェクト「おながめし」や、新たに農業を始めた方への支援制度などもあり、遠賀町の農業は更なる広がりを見せています。

「日本一」の企業の技術や
起業支援への取り組みで
遠賀の産業を豊かに

遠賀町には、東京商工リサーチ発表の「日本一」企業が3社あります。国内外でウキ製造トップ企業の釣研、規格外・別注対応の人工大理石製造で国内トップクラスの実績を誇る和田商事、キャンピングカーの販売台数日本一のナッツです。どの企業も、確かな技術と細やかな対応でお客様のニーズに答えています。その他にも全国展開する製造会社が活躍中で、遠賀町の産業を支えています。

また、起業支援施設ピットでは、子育て中のママやアクティブシニアの方々を中心に起業支援し、新しい事業と雇用の創出を推進しています。



炒め物やかき揚げなど、いろいろな食べ方がおいしい遠賀ふき。



キャンピングカーの販売台数日本一のナッツ。

古くからの文化も新しい祭りも
 守り伝え、遠賀町に住む人々の
 暮らしと気持ちを豊かに



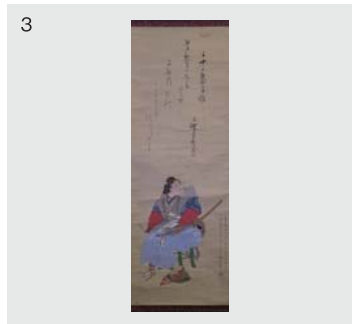
遠賀町には、豊前坊古墳群や島津・丸山古墳群など、多くの歴史的な文化財があります。また、豊かな自然と共存していく中で生まれた、古くからの祭りや郷土芸能が数多く受け継がれ、新たなイベントと共に親しまれています。町の人々は、親から子へ、伝統と文化を伝えながら、未来へと続く遠賀の歴史を作っているのです。

**農耕文化発祥地の
 一つとして
 遺跡や郷土文化が残る**

豊かな水をたたえる遠賀川の恵みを古来より受けてきたこの地域では、農耕文化が栄え、数々の遺跡が残されています。中でも島津・丸山古墳とその周辺は、歴史自然公園として整備され、歴史を学ぶと共に、四季折々の花や野鳥、昆虫などを観察することができます。また、中秋の名月の夜には観月コンサート「雅」が開かれ、約850本の切り絵付きの竹行燈やかがり火のほのかな灯が照らす、幻想的な雰囲気を楽しめます。そして、地域に伝わる昔話にも登場する神社仏閣が多く現存し、信仰の対象として、古来より続く祭りで親しまれています。

**伝統芸能の復活や
 新たに生み出された祭りが
 町の風物詩に**

遠賀町には、五穀豊穡と無病息災を祈願する老良・島津山笠や、尾崎地区の御幸祭り、浅木神社の御神幸など、地域で大切に受け継がれてきた祭りが数多くあります。また、田植えの仕事歌を郷土芸能として蘇らせた「遠賀水踏み唄」や、子どもたちが主役の「こどもまつり」などの催しも生まれています。さらに、毎年1万人以上が訪れる「夏まつり」では、伝統の遠賀太鼓や打ち上げ花火、加えて千人以上の町民が参加する「千人踊り」という圧巻の盆踊りも。町外からの参加者も多く、誰もが楽しめる夏の風物詩です。



- 1 「夏まつり」の目玉の一つ、遠賀太鼓。これがないと始まらない。
- 2 遠賀町に多数点在している遺跡から出土した土器「双口壺」。
- 3 江戸～明治時代に地域教育に大きく貢献した上野良秀の肖像画。
- 4 神社やお寺、人物などにまつわる15の昔話が伝わっています。
- 5 7月に行われる老良山笠は、個性的な人形飾りの山車が見どころ。



中秋の名月には、島津・丸山歴史自然公園で観月コンサートを開催。



復活した郷土芸能、遠賀水踏み唄。田んぼの水くみを表しています。

町の人々が誇る 四季折々の自然と 豊かな水の恵み

町と同じ名前を持ち、悠々と流れる遠賀川。
全長61キロメートル、
流域面積1026平方キロメートルの大河は、
遠賀町に住む人々の生活や産業を支えてきました。
四季折々の自然が楽しめる豊かな水と緑の町を
次世代に引き継ぐため、自然環境の保全に努めながら
親しみのある水辺環境の創出、
花や緑があふれる空間づくりに取り組んでいます。



- 1 遠賀町産菜種油の原料にもなる、鮮やかな黄色の菜の花。
- 2 水路を整えて治水・利水を図り、豊かな恵みと共存しています。
- 3 田んぼ一面に咲くれんげ。遠賀町産米「夢れんげ」の栽培も。
- 4 「恐竜公園」の愛称で親しまれているふれあい公園。
- 5 成長して帰ってきてくれる事を願いながらサケの稚魚を放流します。



天然記念物のオニバスが自生する蟹喰池。



通過する電車を間近で見ることができる今古賀中央公園。

貴重な自然環境・資源の 保全に努めながら 快適なまちづくりを

自然的土地利用の占める割合が高く、町内を遠賀川や西川などの河川が流れる自然豊かな遠賀町。土地の約6割が、農用地や森林、水面・河川・水路であり、町の天然記念物に指定されているオニバスが自生する蟹喰池や、れんげや菜の花、稲穂に彩られた田畑などが見られます。平成27年に実施した住民意識調査では、「町外の人たちにPRしたい遠賀町の良さ」は「のどかな田園風景」が第1位となっており、町の魅力の一つです。そのため、貴重な自然環境の保全を図ると共に、それを生かした自然とのふれあいの場づくりも推進しています。

水と緑をたたえた ふれあいの場を 守り引き継ぐ

遠賀町では、自然豊かな環境を生かし、その中でこのびのびと過ごせる公園施設を整備。現在町内にはさまざまな特徴を持つ65カ所の公園があり、普段は憩いの場として、災害時には避難場所として活躍する重要な施設です。
また、平坦で山が少ない地形のため水害も経験しましたが、改修工事も進み、現在では治水と景観に配慮した河川空間が形成されています。遠賀川での「おんがレガッタ」や西川でのサケの稚魚放流など、河川に親しむ機会づくりに加え、歩道、公共下水道の整備を継続し、河川環境の改善や水質保全に努めています。

過去の経験を生かし
防災・防犯に
積極的に取り組む

遠賀町に多くの恵みを与える一方で、その水量の多さから、過去に大洪水被害をもたらした遠賀川。町の人々は忘れてはいけない教訓として、防災に積極的に取り組んでいます。また、子どもたちをはじめとする町民の安全のため、地域ぐるみで防犯活動を進めています。



水と共生する町として
災害に強い組織をつくり
非常時に備える

近年、集中豪雨などの災害が全国各地で発生しています。遠賀川流域にあり、町域の大半を低地が占める遠賀町では、昭和28年6月（当時遠賀村）、記録的な豪雨で甚大な被害を受けたことを教訓に、洪水による被害への警戒と対策に積極的に取り組んでいます。

河川改修による治水の推進のほか、災害時のための備蓄倉庫を役場敷地内と遠賀町食育交流・防災センターに整備。さらに遠賀町役場、遠賀コミュニティセンター、広渡小学校などに非常用電源として太陽光発電システムを導入するなど、防災関連施設の充実に努めています。

自分たちの町を
自分たちで守るとい
高い意識を持って活動

遠賀町では「自分たちの町を自分たちで守る」という意識のもと、防災・防犯力の向上を図っています。遠賀郡消防本部などの関係機関や消防団、各区自主防災組織と連携すると共に、防災マップや洪水ハザードマップを活用しながら、防災に関する出前講座や図上訓練を継続し、災害に強い組織・人づくりを推進しています。

また、警察や地域、関連諸団体が連携し、「遠賀町あるき隊」やボランティアなどによるパトロール、防犯パトロール車の巡回、防犯灯や防犯カメラの計画的な整備など、防犯力を高めるためのさまざまな活動を行っています。



- 1 各地区の自主防災組織が自主的に訓練を行い、非常時に備えています。
- 2 昭和28年の大洪水は忘れてはいけない教訓として語り継がれています。
- 3 自分たちの住む町は自分たちで守る。普段からの声かけを大切に。
- 4 町民に貸し出しも行っている防犯パトロール車。
- 5 女性防火・防災クラブの皆さんによる炊き出しの訓練も。



食育交流・防災センターには備蓄倉庫を整備し、非常用物資を確保。



消防団員は、強い使命感を持ち、火災や風水害に備え日々鍛錬に努めています。

今までも、これからも。
みんなの夢と共に歩んでいきます。

町制施行から50年を越える遠賀町。雄大な遠賀川と緑あふれる田園風景といった豊かな自然の恵みを受けながら、産業の発展、暮らしや教育環境の充実などに取り組んできました。先人たちが守ってきた自然環境、築き上げられてきた伝統や文化を受け継ぎながら、さらなる発展のため、未来へと歩みを進めていきます。

明治

- 明治22年 ● 町村制施行により浅木村、島門村が誕生
- 明治23年 ● 国鉄遠賀川駅開業
- 明治41年 ● 国鉄室木線開業
- 明治44年 ● 遠賀川郵便局開局

- 大正4年 ● 国鉄遠賀川駅跨線橋完成
- 大正13年 ● 遠賀川橋完成

昭和

- 昭和4年 ● 浅木村と島門村の合併により遠賀村が誕生
- 昭和6年 ● 遠賀村役場庁舎完成



● 国道3号線完成

- 昭和22年 ● 国鉄芦屋線開業

- 昭和23年 ● 遠賀中学校開校

- 昭和28年 ● 遠賀川堤防決壊

大洪水により村のほとんどが水没

- 昭和30年 ● 遠賀村簡易水道浄水場完成

- 昭和36年 ● 国鉄芦屋線廃止

- 昭和39年 ● 町制施行により遠賀町誕生

人口9764人(1月1日現在)



- 町全域にわたる国土調査事業開始
- 遠賀町戦没者慰霊塔完成
- 島門小学校新校舎完成
- 町民体育大会始まる
- 国勢調査人口8592人

- 昭和41年 ● 農村集団電話開設(317戸加入)
- 有線放送施設完成(島津外9地区)
- 町北部(島津・若松・鬼津・尾崎地区)水道布設事業開始

昭和

- 昭和42年 ● 遠賀中学校新校舎完成
- 昭和43年 ● 広渡排水機場完成

- 町北部(尾崎・鬼津地区)上水道事業開始
- 県道直方・芦屋線立体交差完成
- 浅木小学校新校舎完成
- 遠賀川自動電話交換局完成

- 昭和45年 ● 国勢調査人口9368人
- 遠賀農芸高等学校(現遠賀高等学校)上別府地区に移転 授業開始

- 昭和46年 ● 遠賀町水道事業 中間市水道に併合
- 遠賀郡農業協同組合本所庁舎完成
- 上別府花園排水ポンプ(移設)完成

- 第1次遠賀町総合計画策定
- 昭和47年 ● 県道宮田・遠賀線跨線橋完成

- 遠賀町章決まる
- 遠賀町庁舎(移設)完成
- 遠賀郡消防署完成

- 昭和48年 ● 国鉄鹿児島本線の歩行者専用跨線橋「あけぼの橋」完成
- 虫生津排水ポンプ完成
- 火葬施設「天生園」完成
- 都市計画用途地域が決まる

- 昭和49年 ● 国鉄室木線専用蒸気機関車(SL)姿消す
- 遠賀川郵便局遠賀川地区に移転
- 鞍手町・遠賀町水道組合解散
- 町制施行10周年
- 国道3号線バイパス開通

- 昭和50年 ● 遠賀町中央公民館完成
- 国勢調査人口1万331人
- 都市計画道路計画決定
- 遠賀町中央公民館民俗資料館オープン
- 広渡小学校完成・開校
- 中学校学校給食開始
- 遠賀町土地開発公社設立
- 広渡小学校ナイター施設完成
- 第1武道場完成
- 遠賀・中間地域広域行政事務組合発足
- 町営遠賀霊園オープン
- 遠賀川河口堰完成
- 曲手排水機場完成
- 前川排水機場完成
- 国勢調査人口1万4188人



- 昭和56年 ● 尾倉配水池(上水道)完成
- 遠賀勤労者体育センター(現遠賀体育センター)完成
- 九州朝日レガッタが遠賀川で始まる
- 昭和57年 ● 北九州市外局番統一化
- 昭和58年 ● 馬頭岳ハイキングコース完成
- 子どもまつり始まる

昭和59年

- 遠賀総合運動公園グラウンド完成
- 遠賀南中学校完成・開校
- 第2次遠賀町総合計画策定
- 町制施行20周年

- 町の木と町の花が決まる
- 町主催による夏まつり始まる

昭和60年

- 国鉄室木線廃止 バスへ転換
- 馬頭岳展望台完成
- 国勢調査人口1万5993人

昭和61年

- 第37回福岡県植樹祭開催(町民の森)
- ふれあい広場完成
- 遠賀コミュニティセンターオープン
- 遠賀川漕艇場完成

昭和63年

- 遠賀町民体育館(現遠賀中学校第1体育館)完成
- 平成元年 ● 鬼津堰(戸切川)完成
- 尾崎土地改良事業(5・1号)竣工

平成2年

- とびうめ国体夏季大会開催(遠賀川漕艇場)
- 第2期遠賀霊園竣工
- 国勢調査人口1万7107人
- 平成3年 ● 庁内業務電算化始まる

平成3年

平成4年

- 豊前坊古墳群・経塚 発掘調査開始
- 第3次遠賀町総合計画策定
- 学校週5日制開始
- 平成5年 ● 「出会いの架け橋」完成

平成6年

- 虫生津土地改良事業(5・5号)竣工
- 遠賀町ふれあいの里オープン
- 中学校にALT派遣開始
- 町制施行30周年

平成7年

- 町のシンボルマーク決まる
- 国勢調査人口1万8999人
- 遠賀川下流域域公共下水道事業着工
- 島津・丸山歴史自然公園園完成

平成9年

- 遠賀町庁舎増改築完了
- 農業集落排水供用開始(老良地区)
- ふれあいの里研修棟オープン
- 遠賀町シルバー人材センター設立

平成11年

- 農業集落排水供用開始(尾倉・若葉台地区)
- おんがレガッタ始まる
- ふれあいの里民俗資料館オープン
- 遠賀北部土地改良事業完了

平成12年

- 国勢調査人口1万9309人
- 遠賀町立図書館オープン

平成13年



シンボルマーク

- 平成14年 ● 第4次遠賀町総合計画策定
- 住民基本台帳ネットワークシステムサービス開始
- 平成15年 ● 遠賀川下流浄化センター供用開始
- 平成16年 ● JR遠賀川駅前広場再整備
- 乳幼児医療の町独自助成開始
- 町制施行40周年

平成17年

- 西鉄バス芦屋線全線廃止
- 遠賀町コミュニティバス運行開始



- 今古賀中央公園完成
- 農業集落排水供用開始(遠賀北部地区)

- 駅前広場のイルミネーション始まる
- 国勢調査人口1万9278人

- 遠賀川交番 駅前に移転
- 平成18年 ● 地域イントラネット運用開始

平成18年

- 高家土地改良事業完了
- 遠賀・中間リレーセンター完成
- 平成19年 ● 防災行政無線放送設備完成

平成21年

- 北九州農業協同組合(JA北九)発足
- 子育て支援ひろば「ぐっぴい」設置
- 西鉄バス宗像・波津線廃止
- 平成22年 ● 国勢調査人口1万9163人

平成22年

- 西鉄バス宗像・波津線廃止
- 国勢調査人口1万9163人

平成23年

- 備蓄倉庫完成
- 遠賀町中央公民館リニューアルオープン



平成24年

- 第5次遠賀町総合計画策定
- ロンドンオリンピックメダリスト 鈴木聡美さん町民栄誉賞受賞

平成25年

- 遠賀町駅前サービスセンターオープン
- 全国高等学校総合体育大会(ボート競技)開催
- 平成26年 ● 町制50周年 町の新たなシンボルマーク・町のイメージキャラクター「おんがっぴー」誕生

平成26年

- 町制50周年 町の新たなシンボルマーク・町のイメージキャラクター「おんがっぴー」誕生
- 平成27年 ● 遠賀川駅自由通路、遠賀川駅南側駅前広場供用開始

平成27年

- 遠賀川駅自由通路、遠賀川駅南側駅前広場供用開始
- 国勢調査人口1万8877人
- 平成28年 ● 遠賀町人口ビジョン及び総合戦略策定

平成28年

- 遠賀町人口ビジョン及び総合戦略策定
- 遠賀コミュニティセンターリニューアルオープン
- 遠賀町食育交流・防災センター完成
- 国道3号今古賀交差点立体化工事開始
- 平成29年 ● 遠賀町起業支援施設ビビットオープン

平成29年



イメージキャラクター「おんがっぴー」



シンボルマーク

私たちが遠賀町の将来像として掲げる「笑顔と自然あふれるいきいき」おんが「くみんなで育む絆のまち」を実現するため、分野別基本目標を5つ決めました。さらに、今後の遠賀町のまちづくりを推進するための重点戦略を4つにまとめています。この重点戦略の中で、特に重要なものを「具体的な取り組み」として抽出し、実現のための具体的な事業に全庁を挙げて積極的に取り組んでいきます。

将来像実現のための
分野別基本目標

- ① 自然と共生する
快適なまちづくり
- ② はつらつと生活できる
まちづくり
- ③ 豊かな心を育むまちづくり
- ④ にぎわいのあるまちづくり
- ⑤ 自立したまちづくり

重点戦略

1 新たなにぎわい
拠点づくり戦略

遠賀町の都市発展を目指し、土地区画整理事業を実施するため、新たな活力・交流拠点づくりに向けてのJ R 遠賀川駅南地区開発や、起業支援の充実に取り組みます。



- 駅南地区のまちづくり
- J R 遠賀川駅舎の改修促進
- 起業支援施設の設置
- 創業塾の開催

2 地域の絆・
人づくり戦略

子育て世代が住みやすい、住みやすくなる環境づくりに取り組みます。また、移住・交流相談体制の整備や定住支援などを行い、新たな定住人口の確保につなげます。



- 子ども医療制度の実施
- 学童保育受け入れ体制の拡充
- 子育て支援ひろば「ぐっぴい」の運営
- 移住・交流相談体制の整備

3 農・環・食
魅力づくり戦略

遠賀町の礎である自然環境や農業、そこから得られる遠賀町ならではの「食」を次世代に継承するため、環境にやさしい農業とそれを生かした食づくりに取り組みます。



- 農業分野における就労促進
- 農産物ブランド化促進
- 遠賀町食育交流・防災センターにおける取り組みの充実
- 学校給食における地産地消の実施

4 防災ネットワーク
づくり戦略

豪雨や台風などによる風水害、地震などの自然災害に日常的に備え、防災意識の高揚や災害時の情報伝達手段の構築、災害時における迅速かつ的確な対応を目指します。



- 自主防災組織と連携した防災教育
- 情報通信端末を活用した情報伝達手段の構築
- 指定避難所や指定緊急避難場所のサイン表示
- 災害時にもつながりやすい通信手段の確保

遠賀町の
行政と議会

遠賀町民と共に、
魅力あるまちづくりを目指します。



遠賀町では、魅力あるまちづくりを進めるため、総合計画をはじめとする各種計画に基づき施策を行っています。駅周辺をはじめとする町のにぎわいの創出、災害に強いまちづくり、子育て支援、定住促進など、地域住民のニーズに応じた取り組みができるよう努めています。

遠賀町議会では、選挙で選ばれた13人の議員が、住民福祉の向上やまちづくり実現のため、さまざまな議案を審議し、住民の皆さまの意思を町政に的確に反映することに努めています。

遠賀町公式ホームページでは、暮らしや防災・防犯、子育て、教育などの各種情報に加え、議会のライブ中継や、町長交際費、議長交際費、議員の政務活動費などの情報開示を行い、遠賀町の町政や課題について、誰もが知ることのできる機会を設けています。

これからも「このまちに住みたい」「このまちに住んで良かった」と感じていただけるまちづくりに、住民の皆さまと共に取り組んでいきます。



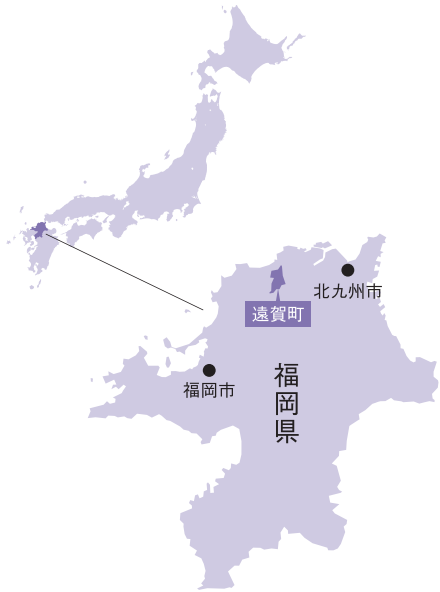
遠賀町役場庁舎

交通アクセス

遠賀町は交通の利便性がよく、北九州市や福岡市など近隣都市へも電車1本で通えます。通勤や通学、ショッピングなどのお出かけもスムーズ。また、九州自動車道や都市高速道路などを使用すると、福岡空港や北九州空港へも約1時間で行けるため、出張やレジャーにも便利です。

町内の移動に便利なコミュニティバスや、遠賀川駅周辺には駐車場や駐輪場施設などもあり、豊かな自然の中で快適な暮らしを満喫できます。

都市部へのアクセスが良く、通勤もスムーズ。



遠賀川駅(JR鹿児島本線)

JR小倉駅までは鹿児島本線で約30分、JR博多駅までは鹿児島本線で約1時間。毎日の通勤や通学はもちろん、お出かけにも便利です。



- 駅前コインパーキング
収容台数/15台
- 駅南側コインパーキング
収容台数/11台
- 駅南第2駐車場
収容台数/83台
- 駅前駐輪場
収容台数/計1,275台
- 駅南側駐輪場
収容台数/270台



折尾駅 = 黒崎駅 = 小倉駅

北九州空港

コミュニティバス

町内の移動は、JR遠賀川駅を中心に、北部・南部地区を循環するコミュニティバスが便利。通学・通勤のためにJRの発車時刻にあわせ、早朝6時から快速線があり、生活リズムに沿って1日5~17便のバスが運行しています。



鞍手IC(九州自動車道)

遠賀町から九州自動車道鞍手ICまで約20分。福岡市内や北九州空港へも約1時間で行けるため、出張や家族旅行もスムーズ。レジャーなども楽しめます。

人口

出生 遠賀町 1日あたり 0.38人 遠賀郡平均 0.50人 <small>2015年 政府統計</small>	転入者 遠賀町 1日あたり 2.10人 遠賀郡平均 2.78人 <small>2015年 政府統計</small>	人口密度 遠賀町 1kmあたり 1,027.60人 遠賀郡平均 1,769.23人 <small>※可住地面積1kmあたり 2015年 政府統計</small>
死亡 遠賀町 1日あたり 0.55人 遠賀郡平均 0.72人 <small>2015年 政府統計</small>	転出者 遠賀町 1日あたり 2.13人 遠賀郡平均 2.99人 <small>2015年 政府統計</small>	世帯人口 遠賀町 一世帯あたり 2.55人 遠賀郡平均 2.46人 <small>※一般世帯 2015年 政府統計</small>

事故・火災

交通事故件数 遠賀町 5.45日に1件 遠賀郡平均 5.12日に1件 <small>※救急搬送分のみ 2016年 遠賀郡消防本部</small>	火災発生件数 遠賀町 45.63日に1件 遠賀郡平均 48.67日に1件 <small>2016年 遠賀郡消防本部</small>
--	---

職員数・経費

職員数 遠賀町 町民1,000人あたり 4.58人 遠賀郡平均 4.66人 <small>2015年 政府統計</small>	行政経費 遠賀町 町民1人あたり 35万8,239円 遠賀郡平均 34万6,368円 <small>2014・2015年 政府統計</small>
---	---

医療

病院・診療所数 遠賀町 1医療機関あたり 1,079.94人 遠賀郡平均 1,288.55人 <small>※歯科除く 2014年 政府統計</small>	病床数 遠賀町 1床あたり 56.67人 遠賀郡平均 66.49人 <small>※病院のみ 2014年 政府統計</small>
--	---

暮らし

持ち家比率 遠賀町 83.40% 遠賀郡平均 73.35% <small>2013年 政府統計</small>	小売店数 遠賀町 町民1,000人あたり 8.37店 遠賀郡平均 7.10店 <small>2014年 政府統計</small>	飲食店数 遠賀町 町民1,000人あたり 4.40店 遠賀郡平均 4.25店 <small>2014年 政府統計</small>
---	--	--